C—66 豊後絞りについて —豊後絞りと鳴海・有松地方の絞りとの関係—

○安藤宏子　原田弘子

目的　豊後の絞りは江戸時代初期より日本国中へとその名も知れ渡っていた。そこで当時の豊後の絞りが、どの地において、いかなる状況のもとに発展していったかを、出来る限り探し得た資料をもとに探った。また、豊後の国より伝播された、鳴海・有松の木綿絞りが商品となった時期を考察した。

考察　豊後絞りが、豊後国大分郡高田郷内田村（現在、大分市皆春）を中心に生産され、商品として成り立ち、人々に知れ渡ったのは、現在の大分市鶴崎地区が、九州の海の東玄関として又、宿場町として栄えた時期である。これは、豊後絞りの栄えた時期と一致する。

豊後絞りは、鳴海・有松地方に伝播し現在も当地には「豊後絞り」「三浦絞り」の名前も残り、また、韓国へもその技術、名前が広がっている。大方は、鳴海・有松地方の木綿絞りは、17世紀中頃から全盛期を迎えようとしていったと記されているが、これらについては疑問を感じる。なお、豊後の木綿絞りと鳴海・有松の木綿絞りが商品として成り立った時期は、かなりの年代差があったことが、史料より明らかである。